

## 文教育学部の魅力

文教育学部長 教授

山本 秀行

教育学部では、多彩かつマルチな才能に恵まれた先生に、めぐりあえます。

昨年四月に着任されたA先生の研究室のドアには、楽譜のコピーが名刺がわりに掲げられています。てつきりAさんは、音楽の先生と思っかたもあるかもしれせん。

しかしご専門は、日本文学、それも中世の和歌です。歌は詠まないが、歌うのは大好きとのことです。ドイツ歌曲にたいする造詣の深さは、まさにプロで、マラーの歌曲に関する博士論文の審査では、ドイツ語の原典を持参され、ミスプリを指摘されていました。

笑う哲学者のT先生は、ジャズ・ピアノのプロです。教授会でも、哲学の原書を読みながら、指で鍵盤をなぞる練習をおこたります。ときには、目をつむって練習にはげむあまり、そのまま居眠りに移行されることもあるようです。

個人研究室のドアを開けると、思いもかけない世界が出現するのも、本学部の魅力です。今年退官された英語学のM先生の部屋には、なんと本物の鏡技用自転車に壁にかけてありました。そういえば、心理学がご専門で、俳人としても知られるI先生の部屋にも、自転車が見えられているとのこと

です。

たまたま、日本女子大学の正門のまえで、自転車で乗ってやってくるI先生をみかけたことがあります。聞けば、昼時にはラーメンの研究に精を出しているとかで、今日は早稲田にある店を試してきたと満足そうに語ってくれました。

比較歴史学コースに昨年着任されたK先生は、日本近世史のバリバリの研究者です。先生の研究室のドアをあけると、そこは三〇年前の東大安田講堂でした。コの字型にくみあわされたロッカーの中には、火炎瓶ではなく、大量の歌舞伎のビデオがきちんと



左はK先生。右が竹本士佐恵師匠

とならんでいました。K先生は、女義太夫の実践者でもあるのです。今年の卒業式には、学生にまちがえられないように、紋付き袴姿で参加されていました。

こうした多彩で、マルチな才能をもつ先生がたを、放っておく手はありません。数年前から本学部では学際制の導入を考えてきましたが、本年度から、それがコア・クラスター制として全学的に実現することになりました。時代や学生が要望するテーマにそって、学部の壁をこえて、魅力的な授業を組むのが目的です。

まずは、ジェンダー系と総合環境学系が走りはじめましたが、来年度にはさらに充実するはず。専門のほかに、もうひとつ別の知の参照系を提供すること。複眼的な思考ができるようにすること。これが、本学部の魅力であり、モットーです。



文教育学部1号館